

転

坂を下りきれば
フェンダーのきしみ
もやい網は横たわり
いわれのない疑惑に追い詰められて
この岸壁の際
私は鞆を落とす
ことを思うだけで
人生に慣れ倦んだこの心を
生きるならばまた
どうせまた上り坂、苦勞して
再び持ち帰るのみ
たとえガラクタといえども・・・
放浪とて今は年甲斐もなきポーズ
便所の落書きと何ら変わるところなし

(1988.12.10)